

## 今年度の特記事項

1. コロナ感染の最大の予防策として、3回のコロナワクチン接種を速やかに実施した。東館の換気扇、網戸、ルーバーの修理を行い、換気できる環境整備を実施した。職員のPCR検査は延べ3756回となり、週1回の検査が定着した。職員の陽性者は3名で施設内への影響はなかった。
2. ご家族の面会はリモートを基本とし、感染者数が減少した時期に対面面会を実施した。正月3ヶ日を重点期間と位置づけ、対面51名、リモート8名の面会を行い、ご家族との久しぶりの再会を喜んでいただいた。
3. ショートステイは包括からの緊急的な受け入れや、居宅からの要望に細やかに対応し、目標稼働を達成した。全室個室であることがご利用者の安心材料となり、施設側の強みとして生かすことができた。
4. 養護では週2回の外出制限を設けご利用者の協力を得た。自粛生活が長期に及び、特に高齢虚弱化した方では意欲の低下や脚力の低下が進み、通院援助の見直しや買い物代行支援を行い対応した。
5. 自立支援ショートでは4床の活用を府中市と協議し、法人独自をショート次年度から開始できる運びとなった。また、他市との緊急一時保護事業の契約を交わした。
6. 地域交流スペースの活用は、感染対策を行い包括の介護予防事業を実施した。併設施設の感染予防を優先し、まん延防止措置期間の活動を休止したため、地域の方々に影響を及ぼす結果となり、さらなる工夫を検討していく必要がある。安心シニア塾や昼食会は全て中止となり、新しい生活様式でできる事を模索し再開に向けて検討をしていく。
7. ICTの活用ではケアカルテの日々の記録とともに事故報告書の入力を全件移行した。情報の共有化にガルーンの掲示板を活用し進めた。今後はリスク区分の理解や事例検討を通し、個別ケアの質の向上や業務の改善につなげていく。
8. 3ヶ年の計画については、平均稼働率は特養94.6%地域密着型特養93.1%短期入所84.4%、養護93.3%、自立支援ショート12.9%であった。自立支援ショート4床の活用で次年度開始となる法人独自ショートの一步を踏み出すことができたのは大きな成果であった。法人全体で取り組んだ福祉機器の導入は、3年目にリフト1台を導入し活用できた。2020年に行った、ナースコールの更新とICTの連動は、東西館を一体化でき夜間業務の見直しとなった。リモートを使用した面会や会議、研修受講はコロナ禍で職員全体で工夫をし新しい生活様式の中でICTの活用が進んだ結果となった。